

政務活動費（ 創世下関 ）出張報告書

平成 29年 11月 31日

<p>氏 名</p> <p>福田 幸博・亀田 博・井川 典子</p>	<p>用 務</p> <p>第79回全国都市問題会議</p>
<p>期 間</p> <p>平成 29年11月 8日から 平成 29年11月10日まで</p>	<p>出張先</p> <p>沖縄県那覇市</p>

全国都市問題会議

初日

開会式

基調講演：「多様性のある江戸時代の都市」

東京大学史料編纂所教授 山本 博文

主報告：「ひとつながりまち 新しい風をつかむまちづくり」

沖縄県那覇市長 城間 幹子

一般報告：「人口減少社会の実像と都市自治体の役割」

首都大学東京大学院人文化学研究科准教授 山下 裕介

「自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくり」

北海道釧路市長 蝦名 大地

「新たなステージに入った沖縄観光」

—複合的な魅力を有するハイブリッドリゾートへ—

琉球大学観光産業科学部長 下地 芳郎

2日目

パネルディスカッション

「ひとつながり都市の魅力と地域の創生戦略」

—新しい風をつかむまちづくり—

コーディネーター 早稲田大学理工学術院教授 後藤 晴彦

パネリスト

㈱能作 代表取締役社長 能作 克治

まちひと感動のデザイン研究所代表 藤田 とし子

沖縄文化芸術振興アドバイザー 平田 大一

福井県勝山市長 山岸 正裕

静岡県島田市長 染谷 絹代

山本氏による基調講演、「多様性のある江戸時代の都市」では、江戸時代の町は城下町・宿場町・門前町・港町などの多様な発展で都市化した。

特に江戸、京都、大阪は三都と称されそれぞれが大都市として発展していった。又、参勤交代が街道と宿場町の発展に大きな役割を果たし、江戸と諸国の格差を軽減させたそうです。

庶民のお伊勢参り、善行寺や金毘羅宮へのお参りも参勤交代と似たような役割を果たしていたようです。

この時代には、流通網も形成されて全国各地に海産物も運び港町も発展していった。このような江戸時代のまちづくりが現在に至っている。

続いて、城間那覇市長の主報告は、那覇市の概要と魅力についてお話されました。那覇市は、亜熱帯の気候と風土に育まれた沖縄独自の歴史、文化、風習がある。その中での課題と解決策、取組みを行っている。

これから、那覇市が目指す都市像は、「ひと つなぐ まち」のキャッチフレーズのもと、ひととひとと地域、ひとと地域と企業をつなぎ、その絆を幾重にも紡いで大きな布として町全体を包むものであると確信して施策を遂行されておられます。

続いて、山下教授の一般報告は、東京一極集中と人口減少社会の問題を解説されました。

人口減が財政難につながり、十分な公共サービスが提供できなくなる自治体が生まれ、さらに少子高齢化が進んでいく悪循環が起こるであろうとのお考えでした。そこで、本来の人工ビジョンの考え方と総合戦略のあり方についての解説があり、成長社会の限界について、リスク社会からリスク対応社会を経て、安定持続社会へと人口問題を解決していくためには、きめ細かな住民の参加と進、協働を前提とした政策形成の場づくりが必要であり求められているとされました。

続いて、蝦名釧路市長の一般報告は、釧路市における地方分権と地方自治について話され、自然と都市が融合し共生することが、地域の価値を高めるとし、そのための取組みを行っているとの報告がありました。

そして、将来を見通したまちづくりの構想を話されました。

最後に、下地教授の一般質問は、観光からツーリズムへと変わる中で都市にとって大きなチャンスであると言われました。

沖縄観光の歴史を分析されたことと、今の沖縄観光の現状と課題、特に那覇市等都市部のインフラ整備を指摘されました。

那覇市に対して大きな期待を持っておられると言われていました。

2日目は、「ひとつがつなく都市の魅力と地域の創生戦略」と題してパネルディスカッションが行われました。

染谷島田市長より島田市の紹介と市民と協働・連携している取組みの報告がありました。

市民参加型シティプロモーション「島田市緑茶化計画」。島田市の特産品である緑茶をメインに産官学とまち全体で様々な取組みを行っています。ロゴマークでイメージアップを図ったり、郵便ポストを緑茶のグリーンに塗ったり、緑茶粉末チョコレートの開発だったりと色々なことに挑戦されています。

これからの広域連携や新たな取組みの目標も述べられました。

山岸勝山市長は、勝山市の概要とまちづくりの理念と構想について発表されました。

デザイン研究所の藤田代表は、行政と市民の間をサポートする立場からのご意見とし、市民が主役のまちづくりを実現する活躍の舞台を創ることをあげられました。経験をもとにしたノウハウ、アドバイス、ネットワークを作ることのサポートが必要だと話されました。そして今後は、若者世代の活躍が新たな地域価値を創出すると説かれました。

能作社長の代理で長女の千春さんが参加され、民間からの視点で産業観光による地方創生について話されました。高岡市で伝統産業である鋳物製造をされている会社で、独自の視点から付加価値をもった製品の販売に成果をあげたり、鋳物職人の技術を見てもらうことを取り入れ、観光産業としての工場見学や体験工房、情報発信、直営販売、飲食サービスと地元と連携して地方創生に邁進しておられることを発表されました。

最後に、沖縄文化芸術振興アドバイザーの平田氏は、沖縄で活躍されている演出家ですが、2011年沖縄県文化観光スポーツ部の部長に民間からなられました。県の文化観光スポーツ事業を舞台づくりの目線で行ったそうです。「台本・配役・予算」を「計画・人事・予算」に置き換えて組み立てていかれた経緯を話されました。

コーディネーターの後藤氏がパネリストに地域創生の思いを聞いて終了しました。